

神戸常盤大学・神戸常盤大学短期大学部

第 I 期中期実行計画

中間評価 報告書

令和 4（2022）年 12 月

神戸常盤大学・神戸常盤短期大学部

1. はじめに

神戸常盤大学の点検・評価活動は、1) 認証評価（日本高等教育評価機構による外部評価、7年毎）、2) 「中期実行計画」に基づく点検・評価（学外評価員による外部評価、2年毎の中間評価及び終了時評価）、3) 年間活動報告書に基づく点検・評価（学内各組織による自己点検・評価、毎年）という、評価の視点・サイクル・方法の異なる3種類の点検・評価を組合せて実施している。

本年、令和4年度は、上記2)の「第Ⅰ期中期実行計画（令和2年度～令和5年度）」の中間評価実施年であり、「中期実行計画」の中間報告をもとにした外部評価員による点検・評価を実施した。この中間評価は、「中期実行計画」の進捗状況の評価及び実行計画後半に向けての改善点の指摘のみならず、「第Ⅱ期中期実行計画」策定に向けての課題抽出という目的も併せ持っている。

今回の中間評価で外部評価員の方々からいただいたご意見やご指摘を踏まえて、本学の教育・研究活動等の改善・向上に努めるとともに、将来に向けた新たな目標策定にも活かしていきたい。

A. 「中期実行計画」中間評価の方法

- 神戸常盤大学「第Ⅰ期中期実行計画」の中間報告書に基づいて評価する。
- 教育・研究、学生支援、地域貢献・国際交流、入試の4分野について評価する。
- 評価会議では、評価員と本学教職員との対話を通して、客観的な視点での本学の課題を認識し、改善への道を見出すことを主目的とする。このような理由から、中期実行計画の定量的な到達度評価は行わず、評価員からの総評と分野ごとの評価会議概要を合わせたものを中間評価報告書とする。

B. 外部評価員

岡田 豊基	神戸学院大学 教授（元学長）
小林 功英	日本私立大学協会 広報部 編集係長
塩野 一知	株式会社リクルート Division 統括本部 グループマネージャー
宮田 英和	株式会社サンテレビ 元取締役、学校法人玉田学園 理事

C. 評価会議

日 時：令和 4 年 9 月 15 日（木）13:00～15:50

場 所：神戸常盤大学

出席者：外部評価員（上記）

神戸常盤大学学長 濱田道夫、他 本学教職員 30 名

2. 総 評

貴学は2学部5学科で1,500名以上の学生が在籍し、学生の悩みや意見なども吸収しながら日々教育・研究活動に邁進されていることに敬服する。しかし、全ての学科が国家試験の受験や資格の取得という強みを有していることもあり、各学科の色合いが強く、また、大学における3つのポリシーと、各学科における3つのポリシーの関連性が薄いとも感じられる。これは大きな大学に於いても同様の課題があるのかもしれないが、貴学の場合は各学科の専門性が強いことが一因であると考えられる。本評価会議では入試の動向なども議論し、各学科にて良い意味での危機感の共有がなされたので、今後、貴学の発展のためには、専門性を活かし、ひとつのベクトルに向かっていくという強みに対して、学科間のバランスを調整し、大学として強い絆を構築することが重要であろう。IR室にて収集している様々なデータの他に、各学科が独自で行っている調査もあるということであったが、大学の発展を考える場合には、それらの情報について大学全体で共有し、意見交換を行うことが必要であろう。そして、そうした取組みを広報に繋げることで、大学の強みが高校生や保護者に伝わると考えられる。

大学全体で見ると、学科間の交流もひとつ課題として存在すると感じられる。初年次教育「まなぶる➤ときわびと」が、各学科の教員間交流のひとつのきっかけであると思う。そのような場で他学科の教員と交流することによって、大学全体の意識の共有が図れると考えられるので、そのような工夫を今後も模索していただきたい。

次に学生支援について、学生にとっては社会との交流が成長するための場であると考えられる。貴学においても様々な活動をされているが、例えば、神戸市長田区に存在する大学として防災教育には力を入れているかと思うが、教育学部の学生が地元の小学生を対象に防災教育を行う、或いは、看護学科の学生が災害発生時にどのようなことをすれば看護学生として貢献できるかを地域の方とともに考えるなど、今以上に社会貢献活動に取り組んでいただきたい。さらに、神戸という街は国際色の強い街であり、そこにある大学としてのメリットを活かし、国際交流活動にも今以上に取り組んでいただきたい。学生は座学や実習のみではなく、これらのような活動を通し、社会と交流することで成長するので、教員・職員の皆様が一体となって取り組んでいただきたい。

次に、「神戸ブランド」という点について、本会の中で、神戸市の教員採用試験の競争率が高いこと、また、貴学では県外からの入学者が比較的少ないことなどを伺った。神戸という街のブランドは強いと考えられるので、今後、県外、具体的には中国・四国地方や九州地方に向けて、神戸にある大学ということをアピールし、志願者を増やすという取組みも行うべきであろう。

次に、貴学は専門性の高い大学であり、他の大学に類を見ない特徴を有している。今後、他大学との差別化を図る場合には、これらの特徴を伸ばすということをもって差別化を進めるべきであろう。

最後に、卒業生は大学の宝である。学生は手をかければかける程に大学を意識し、大学を好きになり、大学に対しての帰属意識が高まる。そのような学生を育てることで、神戸常盤大学を将来的に支えてくれる卒業生が一人でも多く現れるのではないだろうか。

以上が評価員にて協議した内容である。結びにあたり、貴学の今後益々のご発展を祈念して、総括とさせていただきます。

3. 分野ごとの評価会議の概要

分野ごとの質疑応答の後、評価員から評価・意見・提案等が述べられた。以下に、質疑応答の項目と評価員から寄せられた意見等を記載する。

A. 教育・研究について

質疑応答の項目：

- 1) GPA の可視化にどのように取り組んでいるか。また、活用事例はあるか。
- 2) 神戸常盤大学のテーラーメイド教育とはどのようなものか。
- 3) IR の取組はどのようなことを行っているか。
- 4) 卒後アンケートはどのように行っているか。
- 5) リカレント教育はどのように行っているか。
- 6) 教育研究推進センターとはどのような組織か。
- 7) 研究に関する外部資金獲得について、まだ余力があると考えますが現状はどうか。
- 8) トピックボックスはどのように活用され教職員に共有されているか。また受験生等に対する訴求効果はあったか。
- 9) 医療系大学としての今後の展望はどのようなものか。
- 10) 今後、大学院の設置を検討することはあるか。

評価員からの評価・意見・提案

- 貴学は保健科学部と教育学部の2つの学部を有しており、すべての学生が国家試験や採用試験等に臨む学部構成であることから、学生が比較的同じ方向に向きやすく、指導がしやすいのではないかと考えられる。しかし、それがメリットとなる場合もあれば、改善が必要となる場合もあるのではないか。
- 学生と教員の距離が近く、コミュニケーションを重視したテーラーメイド教育を実施しているとのことであるが、貴学の学生は卒業後に人を相手に働くことになるので、学生時代から教員の方たちと信頼関係を結びながら生活することは非常

に重要であると考えられる。貴学の学生は ST 比率の低さや面談の実施など、とても恵まれていると感じる。

- GPA の分析などにおいては効果的に活用されている。しかし、学生がよく抱く不安は、GPA を算出する前段階である成績評価が、果たして平等に行われているのか、ということである。同じ科目であっても担当する教員によって評価や難易度に差が生じることや、クラス分け等によって評価のされ方が異なるのではないかという違和感を抱く学生も少なくない。そのような問題に対して、GPA 制度を活用して上手く対応すれば、学生に対する信頼度も高まるのではないかと思う。
- 今後、小学生の段階からデータサイエンスについて学んだ学生が入学することとなる。特に医療系の分野においては、今後、データの活用は重要になると考えられるので、これまで以上に基盤教育においてデータサイエンスに関する科目に力を入れていただきたい。英語教育に関しても同様である。また、今年度より、文部科学省と金融庁が金融教育を開始したが、今後、大学においても金融教育を取り入れてはどうかと考える。金融教育の表裏として消費者教育も必要となる。文部科学省のトレンドも考慮し、データサイエンス教育については専門職としてのレベルアップ、金融教育については社会人としてのレベルアップのために、大学として取組まれてはいかがか。
- これまで貴学や他大学で震災に関する講話を行ってきたが、貴学の学生は非常にまじめである一方、他者と関わる社会的な経験が少ないと感じている。成人年齢の引き下げにより入学時から社会的な責任を持っているため、メディアリテラシーや情報リテラシー、コミュニケーションに関する教育を今後検討いただきたい。
- 卒業生との関りも見据え、卒業生に対するリカレント教育を実施することによって、卒業後も貴学をバックアップしてくれる人材が増えるのではないかと考える。

B. 学生支援について

質疑応答の項目：

- 1) 就職率、国家試験合格率の年度による変動の理由と対策について
- 2) 学生支援について、特にコロナ禍で行ったことはあるか。
- 3) PCR センター開設に伴い、教職員の業務の負担増はあったか。

評価員からの評価・意見・提案

- コロナ禍においては、早期に対策本部を立ち上げて相談窓口や奨学金制度を設置し、早期の対面授業再開に努めたとのことである。中間報告書を拝見すると各学科にて中退者のことにも触れられているが、中退者を出さないためにも、コロナ禍に限らずそのような初期対応の継続を次期中期計画に組み入れてはどうか。

C. 地域連携・国際交流について

評価員からの評価・意見・提案：

- 貴学においては長田区との連携は進んでいると思うが、都市部、あるいは地方との連携、例えば兵庫県内の別の地域との連携なども検討してみたいか。次に、神戸市長田区は子供の虫歯の未処理率が高いという課題がある。他大学では、地元の子供の虫歯率0%を目標に掲げている大学もあり、そのような目標を設定して取り組むと大学のブランディングにも繋がると思う。また、大学が地域連携を行うことによって生じる経済効果に着目し、貴学の行っているひとつひとつの活動に経済効果を出す努力をしていただきたい。
- 国際交流はコロナ禍で止まっているのではないかとと思うが、貴学が交流しているネパールは日本と同じく地震が多い国であるため、ネパールにて防災教育をするのも良いのではないだろうか。また、ネパールの特産品を神戸で売るなどの物産交流を行うことも良いのではないか。

D. 入試について

質疑応答の項目：

- 1) アドミッションポリシーの周知はどのような形式で行われており、今後の方向性はどうか。また、受け取り側の理解度はどうか。
- 2) 学生募集の状況について
- 3) 初年次教育やデータサイエンス教育に力を入れていることが、どの程度入試広報に影響するか。

評価員からの評価・意見・提案：

- オープンキャンパスやガイダンス、初年次教育の「まなぶる➤ときわびと」などでアドミッションポリシーの理解に努めているとのことであるが、「まなぶる➤ときわびと」という科目は学生の帰属意識を高める興味深い科目であると感じている。
- 学内での共有のみであっても定量で継続可能な指標を目標として組み込むと、振り返りがしやすくなるのではないかと感じた。
- どの学科においても、どのマーケットで戦うか、どの大学を競合校とするか、という検討を行い、戦略的に入試を行っていただきたい。
- 初年次教育などの広報での活用は、ラッピングの仕方によると思う。高校生が見て、良いと感じるものにして広報することが重要である。また、高校生に伝えるうえで、大学として特徴は様々なものを持ち合わせておくことが大事であると考

える。

- 貴学は大学名に神戸という地名が入っており、高校生は私たちが思っているよりも神戸という街に憧れを抱いている。貴学においても、神戸市と共にもう少し神戸の大学というアピールを行っても良いのではないか。